

オーギュスト・ルノワール（1841～1919）

フランスのリモージュに生まれる。13歳の時に陶器工場に徒弟として入り、絵付けの技術を身につける。1861年画家・グレールのアトリエで正式に絵を学ぶ。翌年、国立美術学校に入学。1864年サロンに出品し入選。モネやシスレーらと印象派の運動に参画。1874年より印象派のグループ展に出品。援助を受けていた出版業者シャルパンティエの勧めもあり1878年からサロンへの出品を再開。その後は試行錯誤や葛藤の時代を経て、穏やかで幸福感に満ちた独自の作風へ到達した。



『麦わら帽子の少女』 1885年 油彩 / カンヴァス

この作品は、光と色に満ちあふれた印象主義に疑問を持ったルノワールがイタリア旅行をし、ラファエロの作品、特にフレスコ画に感銘を受けたころの作品です。モデルの輪郭は丁寧に描かれ、なかでも顔の部分は一段と強調されています。また入念に影をつけて形を背景から浮き上がらせています。

色彩は寒色系に統一され一見さびしそうな印象ですが、恥じらいを含んで伏せられた大きな腫や引き締まった口元からは少女の純真な可憐さや無垢な清潔感がたどよい、美しさが感動的に表現されています。



『勝利のヴィーナスのトルソ』 1916年 ブロンズ

1906年画商ヴォラールの依頼で彫刻家マイヨールはルノワールを訪れ胸像を制作します。ルノワールはマイヨールの彫刻に触発され手がけるようになりますが、この頃には持病のリウマチにより手足が不自由になっていました。画商ヴォラールがマイヨールの弟子であるリシャール・ギノ（1890-1973）を紹介し共同作業で制作したのがこの作品です。裏の左下にはそれを示すサイン Guino Renoir があります。